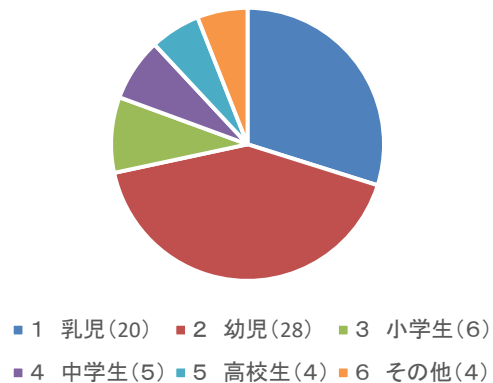


【施設】鎌倉市内の子ども関連施設における読書環境アンケート

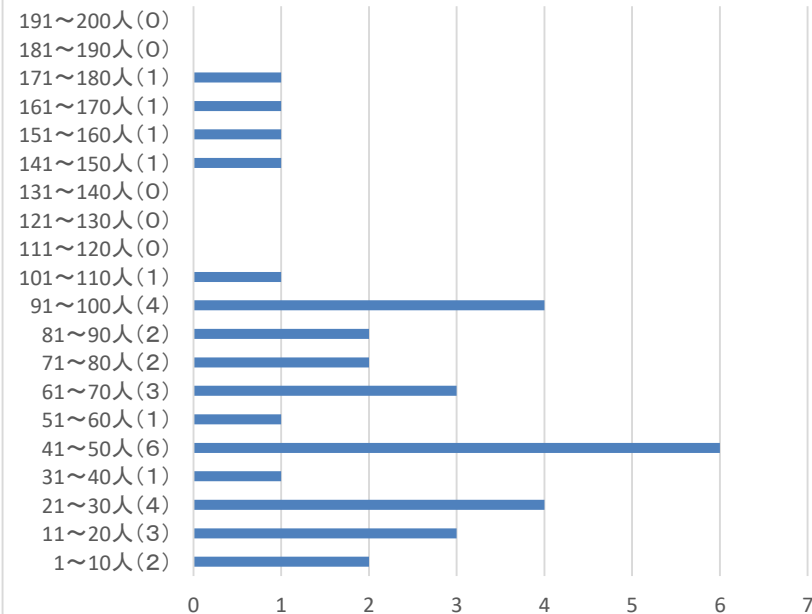
第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画を推進していくにあたり、子ども関連施設の読書環境を把握するため、令和5年（2023年）7月にアンケートを実施しました。
 鎌倉市内の保育園、幼稚園、認定こども園、放課後子どもひろば・子どもの家、子育て支援センター、支援学校、児童発達支援施設、放課後等デイサービス、フリースクールの100施設に依頼し34施設から回答を得ました。
 回答率は34%、e-kanagawaでの回答率は12%でした。回答者のうちe-kanagawaでの回答率は35%でした。
 ご協力ありがとうございました。

※単位について記載のない数値は施設数を表しています。

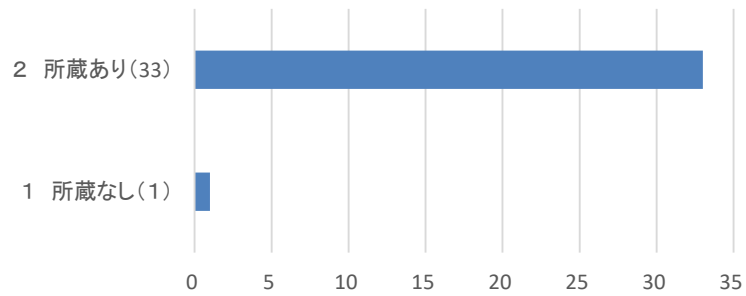
施設の対象者（複数回答可）



施設の利用人数

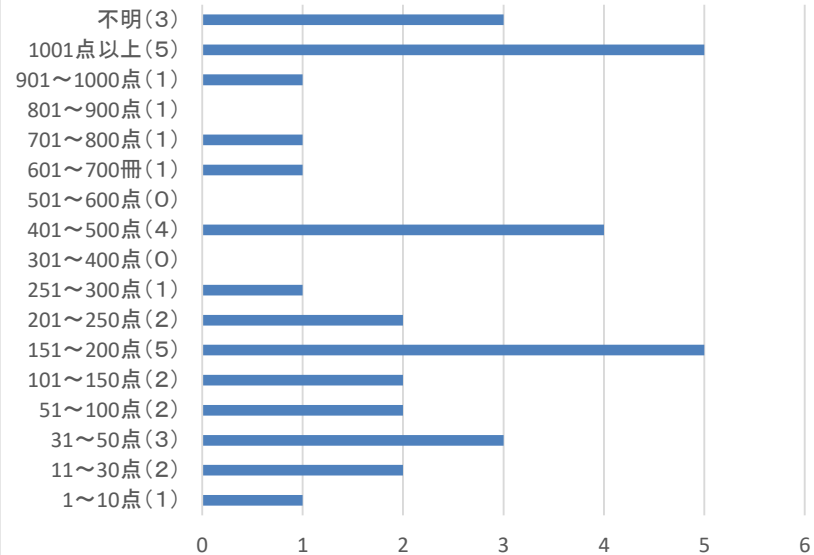


子どもたちのために資料を所蔵しているか

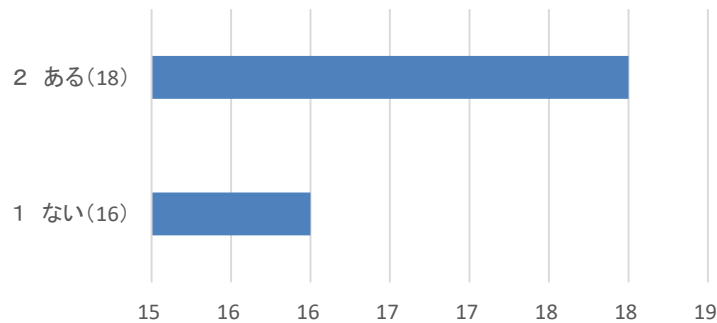


ほとんどの施設で子どもたちのために資料を所蔵しています。利用人数の規模の関係もありますが、1001点以上所蔵している施設も5施設あり、読書環境が充実しています。

所蔵点数

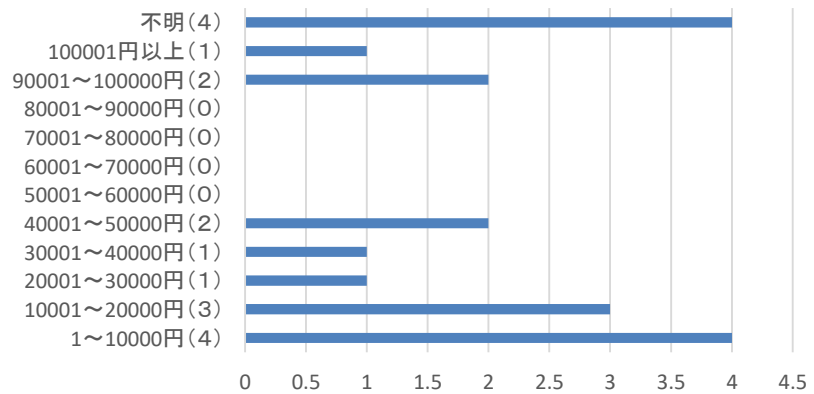


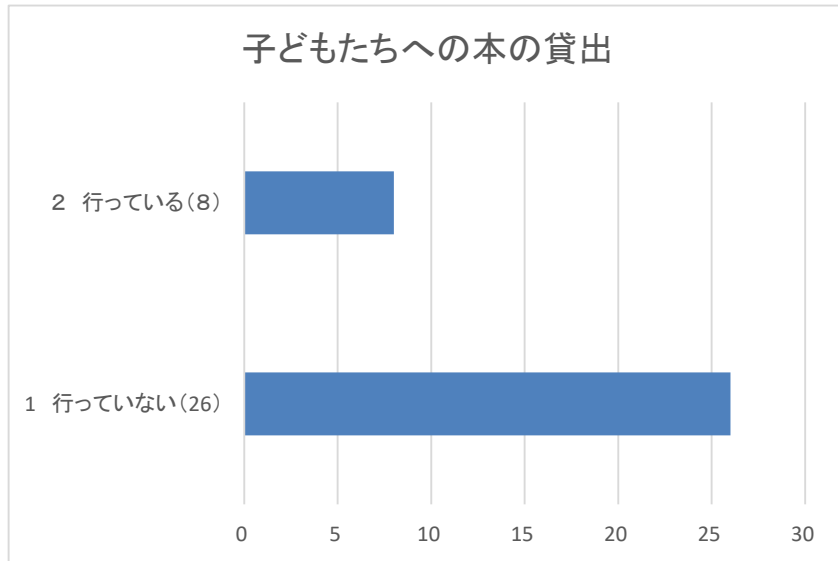
購入予算



購入予算については、ほぼ半々に分かれてましたが、予算10万円の予算が2施設、40万円の施設が1施設ありました。継続した資料の購入につながるため、1万円でも予算化されていることが重要だと考えます。

年間購入予算

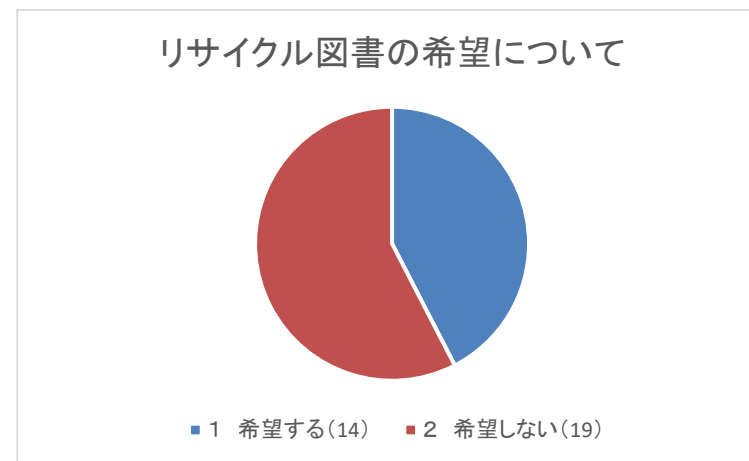
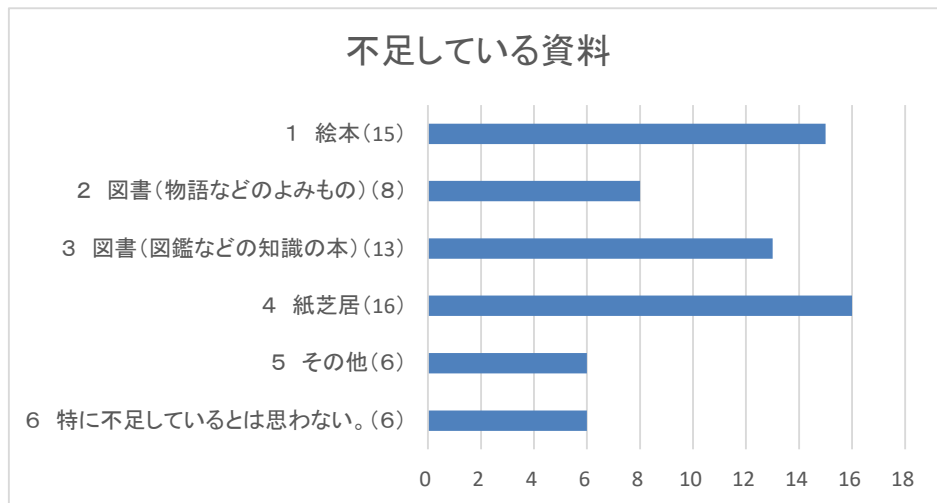




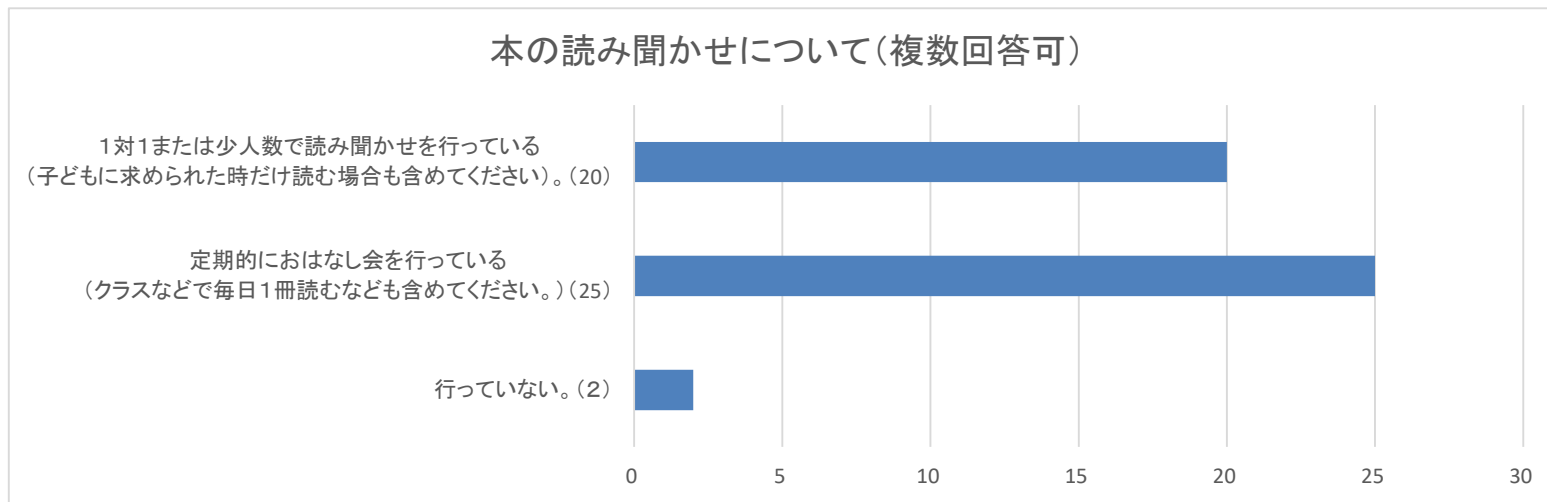
本の貸出を行っている8施設について

- 【貸出点数】
 2～3点 4施設
 無制限 1施設
 無回答 3施設
- 【貸出期間】
 1週間 3施設
 2週間 1施設
 無制限 2施設
 無回答 2施設

貸出せず、施設を利用しているときに、読んだり、読み聞かせを行う場合が多いようです。



リサイクル図書の配布方法を検討し、ご希望の施設へお知らせします。



回答のあったほとんどの施設で読み聞かせが行われています。

【施設】読書バリアフリーについて

《障害のある子どもへの対応》

- ・文字が読めない子、長いストーリーだと集中力が続かない子に対し、短く簡単なストーリーを読み聞かせている。未就学児には0～2才用絵本、小学校低学年児には3～6才用絵本がちょうどよさそう。
- ・レッスンの中で本部が選定した絵本の読み聞かせを行っている。
- ・手で触れて楽しめる絵本や音の出る絵本などの読み聞かせを行っている。
- ・毎日帰りの会で読んでいる（障害児の施設）。
- ・集団生活の中で、障害のあるお子さんがいるときにはその子の発達に合った絵本を用意し、読む場所等も落ち着ける場所を個別に配慮するようにしている。
- ・布絵本や音の出る絵本
- ・ダウン症で難聴の子がいる（読書の面で特別な対応はしていない）。
- ・障害のある子に対しても0、1歳児の対応と同じ対応をしている。

《海外にルーツのある子どもへの対応》

- ・外国のお子さんが多い（いる）クラスでは、日本以外の文化に触れられる絵本を用意して伝えることなどを行っている。
- ・外国の絵本少量所有。
- ・英語の絵本を用意している。
- ・英語の絵本を所蔵している。
- ・海外のママさんに「あいうえお」の本を提供した。
- ・一時帰国のお子さんの受け入れはおこなっているが、在園児と同様の読み聞かせをしている。
- ・英語圏、フランス語圏よりの編入者がいるので、数冊ずつ用意し安心の為に準備している。
- ・ハーフのお子さま在籍の時は、英語の絵本を一緒に見ながら単語で物などの名前を本を通して語りかけをしている。

《その他》

- ・現在、特別読書バリアフリーを意識した本はないが、点字や外国語の本などは、該当する子どもに限らず、学びの一環として、触れる機会を設けられたらとは考えている。
- ・フリースクールの方では、書字に苦手感がある子どもが多いように感じており、ゲームやネットでの動画はよくみているが、本を手にはしている子は少ない。
- ・ネットで電子書籍のアニメや漫画は見ていると思われるが、図書館には足が向かない。どのような図書館の利用ができるのか悩む。

| 【施設】読書について（独自に取り組んでいること、困っていること） |
|--|
| 《独自の取り組み》 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 深沢図書館のすぐ側にあるので、絵本を読みに行ったり借りたりと利用させて頂いている。 ・ 10：00～11：30 15：30～16：00の間に絵本の読み聞かせ会があれば参加したい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に精神障害(発達障害)のお子さまにご利用いただいている施設。利用者に提供する本は本部が選定した物を月ごとに交換している。ご利用者がレッスンを受けている間に、ご家族には子育てについてや障害のある子の接し方の本などをご覧いただき貸し出しをしている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は絵本の読み聞かせボランティアさんが来園してくれていたが、現在は新型コロナウイルス感染症の流行により来園してもらえない。大きな紙芝居などは子どもたちに好評である。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学童の子どもと一緒に図書館に好きな本を借りに行っている。保管場所に限りがあるので大変助かっている。必ずしも借りたい本がその時にあるかは分からないので、読みたい本がある時や、家に持ち帰って読みたい時は自分のカードで借りてもらっている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭への貸出し文庫は季節のものを手前に出すときがある。 ・ 職員が私物の絵本や借りてきた紙芝居等を季節の行事に合わせて子どもたち読み聞かせている。またその絵本を飾るなどして保護者にも意識してもらえるようにしている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回 深沢図書館の方に来ていただきお話し会を続けている。選書もわらべうたも年齢にあっている。また、赤ちゃん向けの本を何冊かご用意下さって、その場で貸し出しのサービスをして下さっていること感謝している。大変好評。 ・ この会をきっかけに本と共にある豊かな子育ての時間を感じていただきたい、また図書館をより身近に感じていただきたいと考えている。 ・ これからも連携し、地域の親子の本と共にある良い時間を提供できるよう相談しお話し会を続けていきたい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 午前と午後の2回、それぞれの終了時間に使った玩具などを皆んなで片付けた後、スタッフによる読み聞かせを行っている。 ・ 毎月1回、定期的に図書館員によるお話し会を行なっている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童にリクエストの本のアンケートを取っている。 ・ 手作りペープサート等を使った読み聞かせ会の開催。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 月一回園長による「おはなし会」を実施。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み:年中長児が好きな絵本に没頭できるような図書コーナーの構成 (敷地と人員に限りがあるため、どうしても周囲が騒がしかったり人目が行き届かなかったりする) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度「おはなし会」を法人か来園してもらい各クラス年齢ごとに絵本・素話・手袋人形などお願いしている。コロナで中止になっていたが、今月7月より再開している。 |

- ・年少児は読み聞かせ後、身体を動かして楽しめるようなもの。年長児は続き話が次の日の期待になるように取り入れてる。
- ・絵本や紙芝居の種類をもっとふやし、教師の視野が広がったら…と考える。

- ・本の貸出をコンピュータへの入出力を子ども自身が操作出来るシステムを採用し、自主的行動や自己充実感を持つことが出来る。子供たちに未知の世界を知らせる。語らいを豊かに知る。
- ・親子(家庭への持ち帰り)の支援時を与えられる。教師の話を中心して聞く力が育まれる。子どもの創造力、空想力、想像力を育む等々

《困っていることなど》

- ・本をやぶる利用者が多いので、定期的に寄贈していただけると助かる。
- ・建物に玄関ホールがないので、保護者向けの本棚を置く場所がない。そのため絵本の紹介や貸し出しなどが難しい。他園の例で、絵本貸出しサービスの一貫で担当保育士と保護者が「貸出連絡ノート」をやり取りしていて、そのノートには子どもの本への反応やら家庭での読み聞かせの様子やら、園での絵本とのかかわりなど本をきっかけにした話題がたくさん書かれていた。とてもいい取り組みだと感じた。本園は2階の奥の職員休憩室の中に絵本棚があって親は入れない。玄関ホールが欲しい。でも敷地が狭くて造れなかった。

- ・困っていること:絵本をなるべく死蔵させずにわかりやすく並べるための環境作り
(子どもが好きな本を繰り返し手に取れるよう、どこにあるかがわかる一覧性)
(未知の絵本との出会い、自分が見つけたという気持ちを得られるような面陳展開と保育環境の両立)
(元の場所に戻すことを通して物を大事にする気持ちを養える管理方法)

- ・本の扱いが雑になってしまうことを直したい。(本を大切にしてほしい)
- ・年齢や個々に応じた本を自分で選べるようなコーナーを作りたい。

《その他》

- ・フリースクールの子は、本をものすごく読むか書字に苦手感があるかに分かれる気がしている。
- ・本に触れない子は学校での授業の辛さを思い出すことがあるのか、本に触れることも恐れているように感じることもある。想像なので、本当なところはわからないが、図書館が本に触れる場所だけではないこと、いろんな価値観の人に出会う場になってくれたら嬉しいと思う。
- ・図書館の方による「おはなし会」の際、ひろばで絵本の紹介、希望者への貸出をお願いしたい。(絵本の選び方や絵本の楽しみ方色々…など「ミニ講話」も併せて)
- ・リサイクル絵本、寄贈本を頂戴したい(子育て支援センター向きと判断くださったもの)